
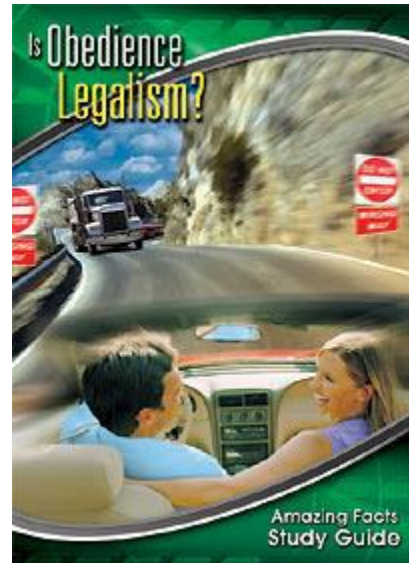


14. 服従は律法主義か？

このページのプリント 

人々は、交通規則を破ったり、または税金の支払いをごまかしても、罰を逃れることができると思うかもしれませんが、神と、神の律法はまったく違い、そのようなことはできません。神は、私たちのすべての行動をご覧になっており、私たちが語るすべての言葉をお聞きになっています。そして神は、私たちがどのようなふるまいをするのかを心から気に留めておられます。主は私たちに、罪のゆるしを提供して下さっていても、依然、神の戒めを破った致命的な結果が存在しているのです。驚くことに、あるクリスチャンは、神の律法に服従しようと努めることは、律法主義を意味することであると述べています。しかしながら、イエスは、あなたが本当に神を愛するならば、あなたは神が要求されることを行うと言われました。それならば服従は律法主義なのでしょうか？時間をかけてこの聖書講座を注意深く読んでください... 永遠にわたる結果をもたらすことになるからです！



1. 神は、本当に私を個人的にご覧になり、気に留めてくださっているのですか



神はあなたを個人的に知っておられ、関心を持っておられる。

「わたしを見ていられるかた」創世記 16:13 「主よ、あなたはわたしを探り、わたしを知りつくされました。あなたはわがすわるをも、立つをも知り、遠くからわが思いをわきまえられます。... わがもろもろの道をことごとく知っておられます。わたしの舌に一言もないのに、主よ、あなたはことごとくそれを知られます。」詩篇 139:1-4 「その上、あなたがたの頭の毛までも、みな数えられている。恐れることは無い。あなたがたは多くのすずめよりも、まさった者である。」ルカによる福音書 12:7

答え： はい、そうです、神は私たちが自分自身を知る以上に、私たちひとりひとり（この地上にいるすべての人々）のことをご存知です。神はすべての人間に個人的な関心を寄せ、私たちがなすすべてのことを怠らなくご覧になっておられます。ただの一言、思い、または行為でさえも神から隠すことはできません。

2. 聖書の中にある神のみ言葉に従わずに、私は神の国に救われるでしょうか？

「わたしにむかって『主よ、主よ』と言う者が、みな天国にはいるのではなくて、ただ、天にいますわが父の御旨を行う者だけが、はいるのである。」マタイによる福音書 7:21 「もし命に入りたいと思うなら、いましめを守りなさい。」マタイによる福音書 19:17 「彼（イエス）に従順であるすべての人に対して、永遠の救の源となり」ヘブル人への手紙 5:9

答え： いいえ！聖書はこの点に関して、きわめて明白です。救いと天のみ国は、主の戒めに従った人々のためのものです。神は、ただ単に信仰を告白したり、または教会員である、バプテスマを受けたというだけで人々に永遠の命を約束しておられるのではなく、それよりは、聖書の中に明らかにされている神のみこころを行う人々に約束しておられるのです。もちろん、この服従は、キリストを通してのみ可能です（使徒行伝 4:12）。



神のみこころを知るために聖書を調べなさい。それがあなたの唯一の安全である。

3. なぜ神は私たちに服従を求められるのですか？ なぜ服従が必要なのですか？

「命に至る門は狭く、その道は細い。そして、それを見いだす者が少ない。」マタイによる福音書 7:14 「わたしを失う者は自分の命をそこなう。すべてわたしを憎む者は死を愛する者である。」箴言 8:36 「そして主はこのすべての定めを行えと、われわれに命じられた。これはわれわれの神、主を恐れて、われわれが、つねにさいわいであり、また今日のように、主がわれわれを守って命を保たせるためである。」申命記 6:24



ただ一つの道が天国に通じる。聖書は私たちにその道を示す地図である。

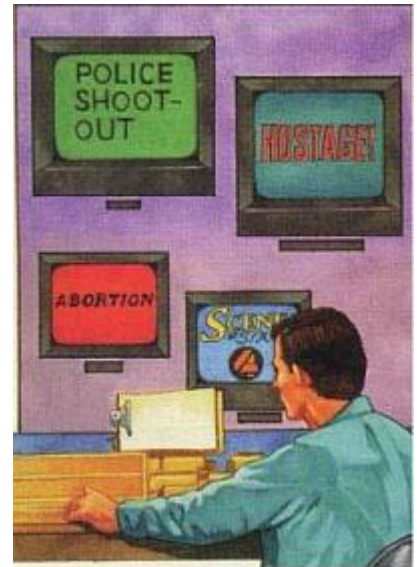
聖書に不服従であることはどのような結果が伴うのか、そしてそれらをどのように回避できるのかを聖書は教えています。人は自分の意の欲するままに生活しながら、神のようになることはできません。それは建築家が、家の建築にあたって設計図を無視するとき問題が生じると同じことです。このような理由で、神はすべての人に、聖書の設計図、または青写真に従うように招いておられるのです。それ以外に神のようになる道はなく、それゆえに、神の国にふさわしくなることもできません。そしてそれ以外には真の幸福もありません。

答え：それは、ただひとつの狭い道だけが神に似た者になり、神の国に行くための道になるからです。すべての道は同じ所に到達するものではありません。聖書は、安全に天国にたどり着く方法を示す完璧な解説書であり、警告や情報が書かれている地図、そしてガイドブックです。聖書のどの部分でも軽視したり無視することは、神の国に至る道からそれることになってしまいます。神の宇宙は、法と秩序の宇宙であります。それは自然、道徳、霊の法則を含みます。これらのどの法則でも破ることは、常にある定まった不変の結果を生じます。もし聖書が与えられなかったとしても、人々は遅かれ早かれ聖書の大原則が存在し、それらが真実であることを見出すことでしょう（試練や誤りを通して）。これらの聖書の原則は、私たちの神経系、腺、そして心に書かれています。これらを軽視するとき、神経は損なわれ、病、そして多くの不幸を味わう結果になるのです。ですから聖書のみ言葉は、都合にあわせて受け入れたり、結果を省みず無視したりすることのできる単なるアドバイスではありません。

4. なぜ神は、反逆と罪を許しておかれるのですか？ なぜ罪と罪人を、今、滅ぼされないのですか？

「見よ、主は無数の聖徒たちを率いてこられた。それは、すべての者にさばきを行うためであり、また、不信心な者が、信仰を無視して犯したすべての不信心なしわざと、さらに、不信心な罪人が主にそむいて語ったすべての暴言とを責めるためである。」ユダの手紙 14, 15 「主が言われる。わたしは生きています。すべてのひざは、わたしに対してかがみ、すべての舌は、神にさんびをささげるであろう」ローマ人への手紙 14:11

答え：全地のすべての人々が、最終的に神の正義、愛、そしてあわれみを完全に確信するまで、神は不服従と罪が存続することをゆるされます。すべての人は、神が服従を要求されたのは、私たちに神のご意思を強制しようとしておられたのではなく、むしろ私たちが危険や破滅から守ろうとしておられたということをついにはっきりと理解するのです。罪の問題は、最も冷淡で頑固な罪人たちが、神の愛と、神が正義であられることを告白するまでは解決されることはありません。その確信を得るためには、ある人々はおそらく、大災害、あるいはもっと悪いことに遭遇することになるかもしれませんが、罪深い生活をもたらす恐ろしい結果が、すべての人に神は公平と正義であることを確信させるのです。その時、そうすることによってのみ初めて、罪と不服従は、主によって安全に終わりを来たらせることができるのです。



ついにすべての人々が、神は正義で愛とあわれみのお方であると理解し認めたときのみ、罪は神によって、安全に根絶されることできる。

5. 神は本当に不従順な人を滅ぼされるのですか？

「神は、罪を犯した御使たちを許しておかないで、彼らを下界におとし入れ、さばきの時まで暗やみの穴に閉じ込めておかれた。」ペテロ第二の手紙 2:4 「主はおのれを愛する者をすべて守られるが、悪しき者をことごとく滅ぼされます。」詩篇 145:20 「その時、主は神を認めない者たちや、わたしたちの主イエスの福音に聞き従わない者たちに報復し、」テサロニケ人への第二の手紙 1:8



知りながらキリストに従わないことを選ぶすべての人々は、最終的に、彼らが愛する罪と共に滅ぼされる。

答え：これは疑いの余地がありません。悪魔と悪天使たちを含む、罪を犯した不従順な人々は滅ぼされます。これは真実であり、まさしく今こそ、善悪の区別が不明瞭なものがあるならば、すべてを捨て去るべきときなのです。人々に、自分自身の愚かな思いつきや、利己的な考えを捨てさせ、偉大な神のみ言葉を、聖書に目を向けるように導くべきです。そして、彼らは今すぐそれをすべきなのです - なぜなら残された時間は、ほとんどないからです！

6. 私は、すべての神の戒めに服従したいのです。私がひとつも見逃してはいないということを、どのようにしたら確信できますか？

「求めよ、そうすれば、与えられるであろう。捜せ、そうすれば、見いだすであろう。門をたたけ、そうすれば、あけてもらえるであろう。」マタイによる福音書 7:17 「あなたは真理の言葉を正しく教え、恥じるところのない錬達した働き人になって、神に自分をささげるように努めなさい。」テモテの第二の手紙 2:15 「神のみこころを行おうと思う者であれば、だれでも、わたしの語っているこの教が神からのものか、それとも、わたし自身から出たものか、わかるであろう。」ヨハネによる福音書 7:17 「光がある間に歩いて、やみに追いつかれないようにしなさい。」ヨハネによる福音書 12:35 「彼らはわたしの事を聞くと、ただちにわたしに従い、」詩篇 18:44

答え： 神の真理は、疑いようがないほど明らかにされています。もし私が：(1) 神の導きを求めて熱心に祈り、(2) 真心から神の言葉を学び、(3) 真理を示されたときにただちにそれに従うならば、神は私を誤謬から守り、すべての真理に安全に導いてくださいます。



神のみ言葉の真理を求め、心からそれに従う人は過ちに陥ることはないと言はれ、神は約束されている。

7. 私に一度も明らかにされなかった聖書の真理に従わなかった場合、神は私を罪に定められるのですか？



霊的なことにおいて、ダチョウをまねる（現実から目を背ける）ことは、悲劇と破壊という結果をもたらす。

「もしあなたがたが盲人であったなら、罪はなかったであろう。しかし、今あなたがたが『見える』と言い張るところに、あなたがたの罪がある。」ヨハネによる福音書 9:41 「人が、なすべき善を知りながら行わなければ、それは彼にとって罪である。」ヤコブの手紙 4:17 「わたしの民は知識がないために滅ぼされる。あなたは知識を捨てたゆえに、わたしもあなたを捨て」ホセア書 4:6 「求めよ、そうすれば、与えられるであろう。」マタイによる福音書 7:7

答え： もしあなたがたがある真理に関して学ぶ機会がなかったのであれば、それに関して神は責任を問われません。けれども、あなたがたが得たすべての光（正しい知識）、そして得ることが可能であった知識は、神に対して責任があると聖書は教えています。多くの人々はみ言葉を求め、学び、神の声に耳を傾けることを拒んだりおろそかにするために「知識を捨てた」者として滅んでしまうのです。ダチョウは問題が起こったり危機が迫ると、砂の中に頭を突っ込んでしまう性質がありますが、私たちはこのように非常に重要な事柄を、ダチョウのように見て見ぬふりをするのは取り返しのつかないことになってしまいます。真理を熱心に探究することは私たちの義務です。

8. 神は、些細なことに関しては、服従を重んじられる方ではないですよね？

「エジプトから出てきた人々で ... ひとりも ... 地を見ることはできない。彼らはわたしに従わなかったからである ... カレブ ... ヨシュアとはそうではない。このふたりは全く主に従ったからである。」民数記 32:11,12 「人はパンだけで生きるものではなく、神の口から出る一つ一つの言（すべての言葉- 欽定訳）で生きるものである。」マタイによる福音書 4:4 「あなたがたにわたしが命じることを行うならば、あなたがたはわたしの友である。」ヨハネによる福音書 15:14

答え： 実のところ、神は小事を重んじられるおかたです。旧約聖書時代の神の民は、これを苦い経験のうちに身をもって知ったのです。約束の地、カナンに行くためにエジプトを去ったのは、約 603,550 人ほどでした。この群集の中で、すべての面で主に従ったのはたった二人（カレブとヨシュア）で、この二人だけがカナンの地に入りました。ほかの 603,548 人は、荒野で死んでしまったのです。私たちは、聖書の「すべての言葉」によって生きるのであるとイエスは言われます（マタイによる福音書 4:4 欽定訳聖書）。たったひとつの言葉でも余分なものではなく、また反対に、ひとつの言葉も不十分、不完全なものはありません。み言葉はすべて、なくてはならないものなのです。



エジプトを去った何千人というイスラエル人のうち、たった2人だけ神に忠実で、約束の地カナンに入ることができた。

9. 私が新しい真理を見出したならば、それを受け入れる前にすべての障害物を取り除かれるまで待ちます。これが最善のことですよね？



光が明らかにされたらただちに従わなければ、光はいずれ暗闇となる。

「光がある間に歩いて、やみに追いつかれないようにしなさい。」ヨハネによる福音書 12:35 「わたしはあなたの戒めを守るのに、すみやかで、ためらいません。」詩篇 119:60 「まず神の国と神の義とを求めなさい。そうすれば、これらのものは、すべて添えて与えられるであろう。」マタイによる福音書 6:33 「彼らはわたしの事を聞くと、ただちにわたしに従い、異邦の人々はきて、わたしへつりました。」詩篇 18:44

答え：いいえ、一度聖書の真理が明らかにされたのであれば、それを受け入れることを待つというのは決して最善のことではありません。実際のところ、先延ばしにするということは、悪魔が仕掛ける最も危険なワナです。待つということは、差し障りのないことのように思えますが、聖書は、光が与えられた直後に行動に移さなければ、それはすぐに暗闇になってしまうと教えています。真理に従うことを妨げる障害物は、ただじっと待っている間に取り除かれることがないばかりか、たいていは大きくなってしまいます。人は神に言います、「道を開いてください、そうすれば私は前進します。」けれども神の方法は正反対で、このように言われます、「あなたが前進しなさい、そうすれば私が道を開く」と。

10. けれども、人間が完全に服従することは不可能ではないでしょうか？

「神にはなんでもできない事はない。」マタイによる福音書 19:26 「わたしを強くして下さるかたによって、何事もすることができ。」ピリピン人への手紙 4:13 「しかるに、神は感謝すべきかな。神はいつもわたしたちをキリストの凱旋に伴い行き、」コリント第二の手紙 2:14 「もし人がわたしにつながっており、またわたしがその人とつながっておれば、その人は実を豊かに結ぶようになる。わたしから離れては、あなたがたは何一つできないからである。」ヨハネによる福音書 15:5 「もし、あなたがたが快く従うなら、地の良き物を食べることができる。」イザヤ書 1:19

答え：私たちのだれ一人として、自分の力で服従することはできませんが、キリストを通してそれは可能であり、キリストの力によって服従しなければなりません。サタンは、神が求められる服従は不当であるかのように思わせるために、それは不可能であるという虚偽を作り出しました。



悪魔は、服従は不可能であるという欺瞞を考案した。

11. 不服従であると知りつつその道を歩み続ける人はどうなりますか？



もし、私が神の愛の警告を無視するなら、私は滅びる。

「もしわたしたちが、真理の知識を受けたのちにもなお、ことさらに罪を犯しつづけるなら、罪のためのいけにえは、もはやあり得ない。ただ、さばきと、逆らう者たちを焼きつくす激しい火とを、恐れつつ待つことだけがある。」ヘブル人への手紙 10:26, 27 「もうしばらくの間、光はあなたがたと一緒にここにある。光がある間に歩いて、やみに追いつかれないようにしなさい。やみの中を歩く者は、自分がどこへ行くのかわかっていない。」ヨハネによる福音書 12:35

答え：聖書には疑う余地がないほどはっきりと書かれています。答えは驚きと衝撃的なものですが真実です。人が知りつつ光を拒み、不服従の道を歩み続けるならば、光はやがて消え去り、その人は、完全な暗闇の中に取り残されてしまいます。真理を拒む人は、偽りを真理と信じてしまう「強い惑わす力」を受けてしまいます（テサロニケ人への第二の手紙 2:11 英語欽定訳聖書）。こうなってしまったら、その瞬間からその人は失われています。

12. 私は、愛は服従よりもっと大切だと思いますが、そうではないですか？

「イエスは彼に答えて言われた、『もしだれでもわたしを愛するならば、わたしの言葉を守るであろう ... わたしを愛さない者はわたしの言葉を守らない。』」ヨハネによる福音書 14:23, 24 「神を愛するとは、すなわち、その戒めを守ることである。そして、その戒めはむずかしいものではない。」ヨハネの第一の手紙 5:3

答え： それはまったく違います！ 聖書は、神に対する真の愛は服従なしに存在することはできないと教えています。愛が伴わない真の服従もありません。どの子供も、両親を愛していなければ完全な服従はできませんし、もし子供が服従しないのであれば両親を愛していることにもなりません。真の愛と服従は、シャム双生児（体が結合した双生児）のようなもので、彼らを切り離してしまうと両方が死んでしまいます。



両親を愛している子供でなければ、だれも両親に完全に服従しない。

13. けれども、私は、キリストにある本当の自由は、服従から解放してくれるものだと思っていましたが、違いますか？



法律に従う市民だけに自由がある。同様に、本当のクリスチャンの自由は不服従からの自由を意味する。

「もしわたしの言葉のうちにとどまっておるなら ... 真理を知るであろう。そして真理は、あなたがたに自由を得させるであろう。」 「すべて罪を犯す者は罪の奴隷である。」ヨハネによる福音書 8:31, 32, 34 「しかし、神は感謝すべきかな。あなたがたは罪の僕であったが、伝えられた教の基準に心から服従して、罪から解放され、義の僕となった。」ローマ人への手紙 6:17, 18 「わたしは絶えず、とこしえに、あなたのおきてを守ります。わたしはあなたのさとしを求めたので、自由に歩むことができます。」詩編 119:44, 45

答え： いいえ、違います。真の自由は、服従することによってのみ得られるものです。それは「罪から」の解放（ローマ人への手紙 6:18）、または、神の戒めを破る（ヨハネの第一の手紙 3:4 英語欽定訳聖書）という不服従からの解放を意味しています。法律を守る市民は自由があります。法律に従わない人は、捕らえられて彼らの自由を失います。服従の伴わない自由というのは、空中を漂う風船、あるいは運転手のいない車のような偽りの自由です。それは混乱および無秩序状態につながります。真のクリスチャンの自由とは、不服従からの自由ということです。不服従は、常に人に痛みと苦痛を与え、悪魔の残忍な奴隷になるという結果をもたらしてしまいます。

14. 神が、あることを求められていると確かになったとき、神がなぜそれを要求されるのか理解できなくても服従するべきでしょうか？



「どうか、わたしがあなたに告げた主の声に聞き従ってください。そうすれば幸を得、また命が助かります。」エレミヤ書 38:20 「自分の心を頼む者は愚かである、知恵をもって歩む者は救を得る。」箴言 28:26 「主に寄り頼むは人にたよるよりも良い。」詩篇 118:8 「天が地よりも高いように、わが道は、あなたがたの道よりも高く、わが思いは、あなたがたの思いよりも高い。」イザヤ書 55:9 「ああ深いかな、神の知恵と知識との富は。そのさばきは窮めがなく、その道は測りがたい。だが、主の心を知っていたか。」ローマ人への手紙 11:33, 34 「わたしは目しいを彼らのまだ知らない大路に行かせ、」イザヤ書 42:16 「あなたはいのちの道をわたしに示される。」詩篇 16:11

愛されている子供は親の要望のすべてを理解していなくても常に親に従う。神の子らに同じである。

答え：まったくそのとおりです！神が、私に理解しがたいことを要求されたとしても、知恵と知識に富んでおられる神を信頼しなければなりません。従順な子供は、たとえ親が命じることの意味がそのときにわからなくても、両親に服従します。神に対する単純な信仰と信頼によって、神は私に何が最善かをご存知であり、間違った道に決して導かれることはないと思えることができます。私たちは、たとえ神のすべてのみ心が完全に理解できなくても、神の導きを、自らの無知のゆえに疑うことは愚かなことです。

15. すべての不服従の陰で動いているのは本当はだれなのですか？そしてそれはなぜですか？



悪魔は、あなたを憎み、滅びるのを望んでいるために、あなたが神に従わないことを願っている。

「罪を犯す者は、悪魔から出た者である。悪魔は初めから罪を犯しているからである。」「神の子と悪魔の子との区別は、これによって明らかである。すなわち、すべて義を行わない者は、神から出た者ではない。兄弟を愛さない者も、同様である。」「ヨハネの第一の手紙 3:8, 10 「サタン ... 全世界を惑わす年を経たへび。」「黙示録 12:9

答え：悪魔が首謀者です。悪魔は、すべての不服従は罪であり、罪は不幸と災いをもたらし、神から遠のき、やがて滅んでしまうことを知っています。ですから、悪魔は激しい憎しみの念を持って、人類すべてを不服従に追い込むのに必死で働いています。あなたも例外ではありません。事実を直視し、決断を下さなければなりません。不服従のために滅びるか、あるいは、キリストを受け入れて従い、救われるのかという選択です。服従の選択をするということは、キリストに従うことです。なぜならキリストを真理から切り離すことはできないからです。「わたしは ... 真理であり、」ヨハネによる福音書 14:6 「あなたがたの仕える者を、きょう、選びなさい。」ヨシュア記 24:15

16. 神の子供たちが受けることのできる特別な奇跡に関して、すばらしい聖書の約束とはどのようなものですか？

「そして、あなたがたのうちに良いわざを始められたかたが、キリスト・イエスの日までにそれを完成して下さるにちがいないと、確信している。」ピリピ人への手紙 1:6

答え：神を賛美しましょう！神の奇跡によって私たちが新しく生まれ変わったように、神は、これからの人生の歩みにおいても、私たちが喜んで神に従っていくときに、天に入り安全になるまで必要な奇跡をもたらしてください。これを約束してくださっています。



新生（回心）の奇跡に続き、神は私たちに、クリスチャンとして成長をもたらすための奇跡の働きを継続してください。

17. イエスを受け入れて従う人々に、イエスは新生の経験をさせてくださるばかりでなく、神の国で安全になるまで、人生の歩みにおいて必要とされる奇跡を継続して働かせてくださることを知ることができたのは喜びです。私は愛をこめてイエスに服従し、今すぐに心を尽くして従い始めたいです。

答え：

- はい
- いいえ

質問

1. 自分は救われていると心から思っているが、失われてしまう人がいますか？ マタイによる福音書 7:21

はい、います！キリストの名によって預言をし、悪霊を追い出し、そのほかのすばらしい働きをしている人が、自分は救われると思っても、失われてしまうというマタイによる福音書 7:21-23 で明らかにしています。彼らが失われてしまうのは「天にいますわが父の御旨」を、行わなかったからです（21節）。神に従うことを拒む人たちは、最後には偽りを信じるようになってしまいます（テサロニケ人への第二の手紙 2:11,12）。それゆえに、彼らは失われているにもかかわらず、救われているのだと思うようになってしまうのです。

2. 正しい道はただ一つしかありませんが、まちがった道にいても、自分は正しいと心から思っている真摯な人々はどうなりますか？ ヨハネによる福音書 10:27

イエスは、彼らを真理の道へと招かれ、そして神の真の羊たちは、その声を聞き、従います（ヨハネによる福音書 10:16,27）。

3. 誠実と熱意だけで十分ではないでしょうか？ ヨハネによる福音書 4:23

いいえ！ 私たちはまた、正しくなければなりません。使徒パウロは、彼が回心する以前にクリスチャンを迫害したとき、誠実で熱心でした、けれども彼はまちがっていました（使徒行伝 22:3,4；26:9-11）。

4. 神がすべての人を同時にご覧になることができるというのは、科学的に不可能なことではないでしょうか？ ローマ人への手紙 1:22

ノアの洪水以前には、一度も雨が降ったことがありませんでしたが（創世記 2:5,6）、それにもかかわらず雨は降りました。自分たちが勝手に考え出した説を、「科学的な」理由として不服従の理由にすることをお気に入りの娯楽にしていた部類の人々のことが、ローマ人への手紙 1:22 で述べられています。「彼らは自ら知者と称しながら、愚か」でした。

5. 真理の光を受けていない人々は、どうなりますか？ ヨハネによる福音書 1:9

聖書は、すべての人が、いくらかの光を受けていると述べています。「すべての人を照すまことの光があつて、世にきた。」ヨハネによる福音書 1:9 各人は、その人が得た光にどのように従ったのかということによって裁かれます。ローマ人への手紙 2:14,15 によると、異邦人でさえ、いくらかの光を持っており、律法に従っていると書かれています。

6. 神が私に服従を求められるなら、何かのしるしを与えて下さいと祈りましたが、これは安全なことですか？ マタイによる福音書 12:39

いいえ、安全なことではありません。イエスは、「邪悪で不義な時代は、しるしを求めろ」（マタイによる福音書 12:39）と言われました。すべての教えは、聖書と照らし合わせ、確認されるべきで、もし、それが神の言葉に調和しているのであれば受け入れ、そして従わなくてはなりません（イザヤ書 8:20 テモテへの第二の手紙 2:15）。聖書の明瞭な教えを受け入れない人々は、しるしが与えられたとしても確信させられることはありません。イエスは言われます。「もし彼らがモーセと預言者と共に耳を傾けないなら、死人の中からよみがえってくる者があっても、彼らはその勧めを聞き入れはしないであろう。」ルカによる福音書 16:31

7. ヘブル人への手紙 10:26,27 に書かれていることは、もし人が真理を学んだにもかかわらずそののちに、ただ一つの罪でも故意に犯すならば、彼は失われてしまうということを示しているように思うのですが、この考えは正しいですか？ ヘブル人への手紙 10:26

いいえ、違います！だれでも犯した罪を告白するならばゆるされます。ここで聖書が言っていることは、ただ一つの行為、または罪のことを指しているのではなく、真理を学んだにもかかわらず故意に罪を犯し続け、キリストに自分を明け渡すことを拒む人のことです。このような行いは、聖霊を悲しませ、離れさせ（エペソ人への手紙 4:30）、そして「無感覚」になるまで、その人の心をかたくなにし（エペソ人への手紙 4:19）、失われてしまうのです。聖書は次のように言っています「また、あなたのしもべを引きとめて、故意の罪を犯させず、これに支配されることのないようにしてください。そうすれば、わたしはあやまちのない者となって、大いなるとが免れることができるでしょう。」詩篇 19:13

8. 無学な者は、聖書を理解できませんか？ イザヤ書 29:12

いいえ！もし人が、自分自身の考えを放棄して、主にすべてを明け渡すならば、学のない人でさえ理解することができます（詩篇 19:7；119:130；マタイによる福音書 11:25）。

クイズ

1. 救われる人々は (1)

- キリストの名によって悪魔を追い出す人たち。
- キリストを愛すると称する人々。
- キリストを受け入れ、彼に従う人々。

2. 下記のリストのうち、私がすべての真理を受け入れているということを確信できる三つの事がらはどれですか?(3)

- 精神科医に尋ねる。
- 光が与えられるように祈る。
- 私の牧師が言う事をする。
- 教会に寛大なささげものをする。
- 自分を罰する。
- よりよき教育を受ける。
- 神にしろしを尋ねる。
- 聖書を研究する。
- 私が学んで理解している真理に従う。

3. 神は私に、次のことの責任を問われず (1)

- 私の牧師が提案した事を実行したことに対して。
- 私の両親の足跡に従ったことに対して。
- 私が持っている光と、持つことのできる光に対して。

4. 私が新しい真理を発見したとき、私のすべきことは (1)

- 無視する。
- それを受け入れるようにとの印象を感じるまで待つ。
- すぐにそれを受け入れて、服従する。

5. 主の戒めに完全に服従することは (1)

- いかなる環境のもとにあっても不可能である。
- 律法主義であって、悪魔から出ている。
- キリストにあつてのみ可能である。

6. 故意的な不服従は (1)

- 暗闇と永遠の滅びに陥る。
- 教会の熱心な働き人ならよい。
- 私が頑固でも神は大目に見られる。

7. 主への真実な愛は (1)

- 服従にまさっている。
- 服従を必要としなくなる。
- 私が喜んで主に従うようにする。

8. 真のクリスチャンの自由とは (1)

- すべてのことにおいて、私が望むように行動する権利。
- 神に背く権利。
- 不服従と、悪魔の奴隷からの解放。

9. 真理の要点が明らかになっても、なぜ神が私にそれに服従するように要求されるのかが理解できないとき、私がすべきことは (1)

- その理由がはっきり分るまで待つ。

- その真理の部分拒む。
- それを受け入れて、神の御言葉に従う。

10. すべての不服従の本当の原因は、だれにあるのですか？ (1)

- 政府。
- 私を誤って育てた両親。
- 悪魔。

11. なぜ、服従は必要なのですか？ (1)

- なぜなら、神は私よりも偉大で、私は神を恐れているから。
- 神を怒らせないようにしておくため。
- なぜなら私は神を愛し、クリスチャンとしての言動に関する原則に従いたいため。

12. 神はなぜ、悪人を即座に滅ぼされないのですか？ (1)

- 神は、それをすることを恐れられる。
- 神は、悪がはびこるのを見て、喜ばれる。
- 神は、すべての者が、神の愛と正義を完全に理解し確信できるまで待っておられる。

著作権 ; 2006 年 Amazing Facts Inc. 無断での複製、転載を禁じます。
個人使用に限ってのみ複写可。 by www.bibleuniversity.com Bible School website.